

# じゅしゅう

第83号  
(通算423号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室  
・3月18日(水)  
10時~11時半  
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室  
・3月24日(火)  
19時~20時半  
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室  
・3月 金曜日開催  
(月3回)

二月八日、第六回「仏教文化講演会」を開催いたしました。大袈裟なタイトルですが、仏教的な考え方を軸に置きながら、何にでも挑戦することのできる行事にしております。

## 第6回 浄覚寺 仏教文化講演会

さて、今回のご講師は三重県四日市より橋本健人先生をお迎えしました。先生とは昔からの知り合いでもあるのですが、「ジャータカルタ」のデザイナーでもあります。仏教を開かれたお釈迦さま。そのお釈迦さまが生まれる前の前世の話しをジャータカ物語と

たものがジャータカルタです。この度の講演会の前半には実際に皆さんと一緒にカルタで遊び、ジャータカ物語を一つご紹介いただきました。後半にはジャータカ物語とお釈迦さまの涅槃図を通して、仏教の背景にあるお話を聞かせていただきました。

と。例えばお釈迦さまのお通夜の様子を描かれた「涅槃図」というものがありますが、その中にもお釈迦さまの涅槃(亡くなられること)を聞きつけ集まってきたものたちは、お弟子さまたちも多くいますが、人間以外の虫や動物たちもたくさん来ています。ムカデやミミズなど、私たちが嫌いに思ってしまう虫たちもいます。仏教は人間だけの救いではないと教えられる。どんなのちも同じに見てくださるのがお釈迦さまの世界観なのです。「平等心」をうるときを、「一子地」となつたり、「一子地は仏性なり、安養にいたりてさぐるべし」これ



宗祖親鸞聖人が

如来の真実を示された

浄土真宗のみ教えを

共によりこび広めます

『浄土真宗の救い』よろこび



# 御文章に聞く(第76回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

**当流聖人章**(五帖第十八通)  
 当流聖人の・すすめまします安心といふは、なにのようもなく・まず、わが身のあさましき罪のふかきことをばうちすて、もろもろの雑行雑修のころをさしおきて、一心に阿弥陀如来後生たすけたまえと・一念にふかくたのみたてまつらんものをば、たとえば・十人は十人・百人は百人ながら・みなもらずたすけたまうべし、これさらに・疑うべからざるものなり、かようによくころえたる人を・信心の行者というなり、さてこのうえには・なおわが身の後生のたすからんことの・うれしきをおもいださんときは、ねてもさめとも・南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏と・となうべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。  
 阿弥陀さまのご本願、第十八願は善人、悪人、男女、老少、賢愚等は一切の差別を認めず、ただひとえに本願力をもつて往生させると誓われました。ですから、いかなる人も往生を遂げることができのです。それを「十人は十人、百人は百人ながら」と、讃えられたのです。もし自力によつて往生するならば、行者の行力の多少によつて、当然往生できる者と、できない者が出てくるはずで、「みなもらずたすけたまうべし」と阿弥陀さまは全てのいのちにはたらかれています。また、その往生が決定するのは、本願を聞かせていただいた時と同時です。つまり今です。「平生業成」とも言います。必ず浄土に往生するという「後生」を聞きながら、「他方の信心」が届いてるが故に、臨終を待たずに往生が今定まる「今生」を、御恩報謝の心で生きていく。それがお念仏の心なのです。

# 仏教語辞典



## 駆け込み寺

夫と離縁するために妻が駆け込んだ縁切寺からきている。江戸時代、離婚は夫側からの離縁が必要であり、妻側から離縁を申し出ることはできなかったが、縁切寺は妻を保護し、離縁調停を行う特権が公的に認められていた。たとえ調停が不調に終わっても、寺に入つて寺の仕事をしながら自由を得た。寺の敷地にも一歩でも入れば寺の保護下に

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。昔から毎日朝晩には家庭のお仏壇に手を合わせ、月に一度はお寺に参拝し、そして年に一度は本山にお参りさせていただきましよう、と聞いておりました。必ず守らないといけない訳ではありませんが、お寺への参拝はお勧めいたします。というのも、お寺での法座にはご法話があります。浄土真宗はお聴聞が大切なことば言うまでもありませんが、生死の解決は一度聞いて答えが見つかるものではありません。何度もお聴聞を重ねて、自分のこととして味わいながら、お念仏をいただきます。 (釋法道)

入るので、夫に捕まっても草履を投げて逃げ切った例もあること。

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。デジタル「じゅこう」をお届けします。

# 行事案内

**4月**  
 日時・三月二十日(祝) 十四時より  
 行事・春季彼岸会  
 場所・長原浄覚寺  
 講師・朝山大俊先生(大阪)

彼岸とはお浄土のことです。お聴聞を通して、私のいのちの行き先をあきらかにし、今を生きる意味を聞かせていただきます。 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

四月十八日(土) 十四時・十九日(日) 十四時のみ  
 報恩講法要 法話 中西昌弘先生